

受講番号 18011 学校名 岡豊高等学校 氏名 國枝 真美

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 普通科普通コース1年生 生徒数 40名  
 科目名 英語 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 Surfing English Course I (文英堂)

クラスの様子・特徴

どの生徒も真面目に取り組んでいるが、英語に対する苦手意識が強く、積極性があまりみられない。授業に活気があり、発言や質問しやすい雰囲気があれば、英語学習に主体的に取り組めると考えているようである。

問題の確定

生徒自身に「授業に参加している」という意識付けができれば、学習意欲の向上につながるのではないか

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
ほぼ毎時間私語もなく落ち着いて取り組んでいるが、「静か」=「集中」ではなく、授業内容を書き写す作業に追われている。音読の時の声の大きさや、質問に対してなかなか答えようとしないう態度から英語に対する自信のなさが窺われる。	6月のアンケートでは、50%の生徒が英語の授業を好意的に捉えていた。楽しく学びながら話す力を高めたいと望む生徒が多い一方で、人前で発言することを「恥ずかしい」、「静か過ぎて発言しにくい」という回答も多くみられた。	1学期中間試験(クラス平均54.8点)、1学期末試験(クラス平均63.7点) 英単テスト第1回(クラス平均56.3点、学年平均58.6点) 英単テスト第2回(クラス平均69.6点)、学年平均75.1点)

リサーチ・クエスチョン

音読に積極的に取り組ませるための指導の工夫をどのようにすればよいか

仮説・実践・検証

仮説1	実践1	検証1
単語の意味や読み方が分かれば、大きな声を出して読むことができるのではないか	ア. 苦手な語(句)を抜き出させ、授業で用いるプリントの隅に書かせるようにした イ. 読み方の分からない単語についてはカタカナで読み方を書くように指示した ウ. 教科書にある新出単語や慣用表現を定着させるために、各レッスン内にある各パートごとに1回5問の小テストを実施した	単語に関しては、読み方やアクセントを意識して覚える習慣が身に付いたようである。カタカナをひることで発音が崩れることを心配したが、意外にもカタカナをふった方が発音がよくなり、大きな声で読む生徒が増えた。アンケートでは、クラス全員が小テストの実施が語彙の定着に役立ったと回答した。
ペアやグループでの活動を多く取り入れることで、発言しやすい雰囲気ができ、声を出して読むことに抵抗を感じなくなるのではないか	ア. 制限時間の設定、なりきり読み、相づち読みなどを取り入れ、読み方にバリエーションを持たせた イ. 5~6人のグループに分かれ、グループ内でBuzz Readingをさせた ウ. 授業の始めと終わりに、ペアで単語や本文の読みをチェックさせた	授業の中で最も活気のある時間となった。全員がさっとペアになり、指示通りに音読活動を始めることができるようになった。制限時間を設けた音読やBuzz Readingでは、自然と声が大きくなり、周りを気にせず集中して取り組んでいる。また、相づち読みは好評で、声色や表情を変えたり、ジェスチャーを織り交ぜながら楽しそうにペアで練習している。
オーバーラッピングやシャドーイングを繰り返し行うことで、英語のリズムが身に付き、音読に積極的に取り組むようになるのではないか	ア. Slash Readingを徹底させ、意味内容を理解させた上でオーバーラッピングやシャドーイングを行った イ. 自分の声を録音させ、自己評価させた	より英語らしい読み方をするために、Slash Readingの活用は効果的であったと思う。Slash Readingの後にオーバーラッピングをさせたことで、抑揚をつけて読むようになった。録音は、自分のペースで読む、オーバーラッピング(テープ/教師)の2種類を行った。自分の声を聴き、評価するということは新鮮かつ得意・不得意の発見につながり、次のステップへのきっかけになったと思う。

研究の成果

音読指導を始めたばかりの頃は、生徒たちの動きが鈍く、お互いが相手の出方を待っているような雰囲気だったが、声に出して読む活動を継続することで、現在は音読に限らず、友だちと分からないところを相談しあったり、机間指導の際に質問をしてくるなど、積極的に取り組む姿勢がみられるようになった。定期的に行う確認テストの点数や課題の提出率もぐんと高くなっている。自分の声を録音して自己評価する活動では、期待以上の取り組みをみせ、友だちと評価しあう場面も見られた。

今後の授業改善の課題

ペアでの音読活動はほぼ順調に進んできたが、グループや全体での活動には積極的な取り組みをみせない生徒がまだたくさんいる。私自身が常に手探り状態で、試行錯誤しながら活動をさせた部分が多く、生徒を振り回した形になってしまったような気がする。シャドーイングに関しては、その段階まで持っていくことが時間的にも難しく、結局はあまり実践できなかった。3学期にはなんとか実現させたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-866-1313

電子メール

mami\_ito@kt5kochinet.ed.jp